

# 課題についての情報提供

## テーマ⑤「インクルーシブ教育」



## ⑤-1. インクルーシブ教育とは

### ➤ インクルーシブ教育とは？

支援教育の理念のもと、共生社会の実現に向け、すべての子どもが、できるだけ同じ場で共に学び共に育つことを目指して、神奈川県が全国に先駆けて取り組んでいる教育。

### ➤ 高等学校の取組は？

平成28年度から始まった県立高校改革において、知的障害のある生徒が高校教育を受ける機会を拡大するため、インクルーシブ教育実践推進校を指定し平成29年4月から生徒が入学しています。

### インクルーシブ教育実践推進校

地区	H29～	R02～
横浜・川崎		城郷、霧が丘、川崎北、上矢部
横須賀三浦・湘南	茅ヶ崎	茅ヶ崎、津久井浜、湘南台
中・県西	足柄	足柄、二宮、伊勢原
県央・相模原	厚木西	厚木西、綾瀬、上鶴間、橋本

第1期3校に入学した生徒はいよいよ卒業。令和2年度入学生からは、県内のすべての地区から県立高校に入学が可能に。

高P連でも過去2年間にわたり分科会で取り上げ、勉強会等を通じ、教育委員会へも意見を共有

## ⑤-2. 取り組みの現状

今後卒業後の進路（選択肢）を調査

### 第4回インクルーシブ教育推進フォーラムに参加し、神奈川県の実践推進校の取組の現状や、実践推進校の取組などについて伺ってきました

#### 実践推進校報告 茅ヶ崎高校の取組

- ◆ 前例がないので最初の学校として前例を作るのが大きな役割
- ◆ 特別なことをやるのではなく、これまでの実践を広めていく
- ◆ 障害だけでなく、様々な生徒が様々な支援を必要としているため、生徒がSOSを出しやすい環境づくりをすること
- ◆ その課題に対し、生徒自身で解決できるような力をつけること
- ◆ 出来ないのではなく、どうやったらできるかを考える（発想を変える）
- ◆ 進路は専門学校や就職、俳優志望もいる
- ◆ 特例子会社はいい制度だが、開かれた学校生活から、また閉じた空間へ戻るといこと

#### 公開座談会 「インクルーシブな学校から共生社会へ」

- ◆ 教員の多様性（自由度）を認められるようになればいい
- ◆ 生徒だけでなく学校全体がインクルーシブになればいい
- ◆ 学ぶということを今後進めていくために地域でどう暮らすかを同時に考えることが必要
- ◆ 教育の中にITをどんどん取り入れることで共通の学びの推進になる
- ◆ 推進校には進学校も選んでほしい
- ◆ アメリカでは障がい者という言葉を使わない
- ◆ 一人一人が自由になればインクルーシブが定着すると思う
- ◆ まずは大人がいじめ、差別意識、人権を脅かすことをなくすことが必要

全ての生徒にとって居心地の良い学校、学級づくり

最終的にはインクルーシブという言葉を使わなくてもいい社会の実現を